

2019（令和元）年度

# 神栖市自然環境調査報告

千葉科学大学

- (1) 菌類および陸上植物に関する調査研究
- (2) 古環境に関する調査研究
- (3) 哺乳類に関する調査研究
- (4) 鳥類に関する調査研究

# (1) 菌類および陸上植物に関する調査研究



筒井地区

息栖神社

須田地区

目視で確認された植物を記録するとともに、きのこ類の子実体や植物寄生菌類を採集

・ 大型担子菌類

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1. クサウラベニタケ | 2. アカヤマタケ属  |
| 3. ニガクリタケ   | 4. キツネタケ    |
| 5. ハタケシメジ   | 6. コガネタケ    |
| 7. ムササビタケ   | 8. オオシビレタケ  |
| 9. ベニタケ属    | 10. ニセショウロ属 |

・ 大型子囊菌類

11. スナヤマチャワンタケ

・ 植物寄生菌類

12. シャリンバイさび病菌

波崎海岸砂丘植物公園

調査地点

# 特筆すべき知見

シャリンバイさび病菌の系統的位  
置の再検討



シャリンバイさび病菌の核rRNA 遺伝子の ITS 領域と LSU の塩基配列の系統解析の結果、シャリンバイさび病菌は、従来の *Aecidium* 属から *Gymnosporangium* 属からなる系統群に転属させられると考えられた。

アカヤマタケ属の未記載種の発見



アズマネザサ *Pleioblastus chino* 群落内の地上からアカヤマタケ属のきのこが採集され、核rRNA遺伝子の ITS領域とLSUの塩基配列の系統解析の結果、本菌を新種として記載する必要が示された。

ベニタケ属の未記載種の発見



モミ群落内の地上から、ベニタケ属のきのこが採集され、核rRNA遺伝子の ITS 領域と LSU の塩基配列の系統解析の結果、本菌を新種として記載する必要が示された。また、本属はモミと菌根を形成している可能性が示された。

## (2) 古環境に関する調査研究



賀地区ボーリング調査

萩原地区ボーリング調査

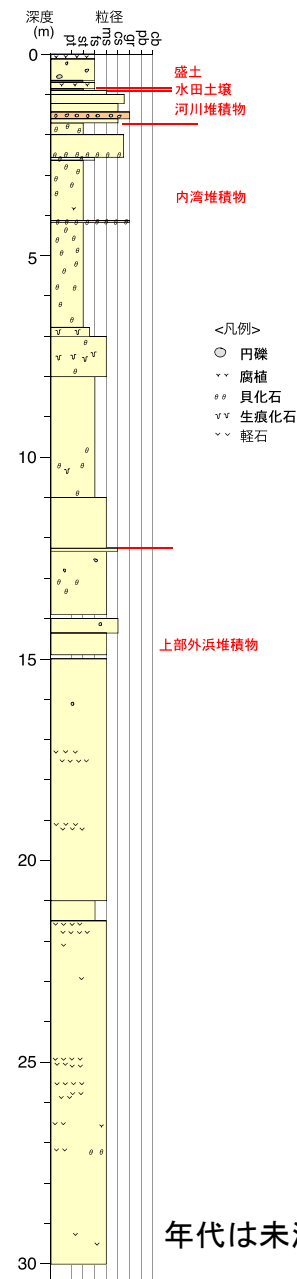
土合地区ボーリング調査

神栖地域の地下地質の研究は、1960年代の鹿島臨海工業地域の開発に伴って行われたが、その後はほとんど行われておらず、地下地質の年代もわかっていない。

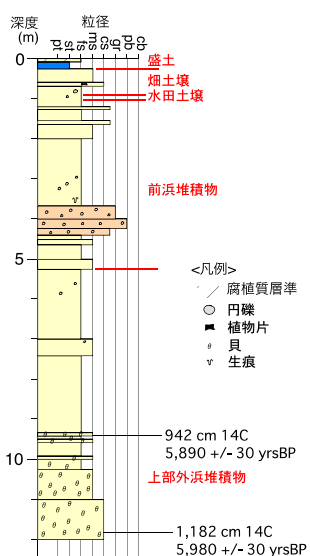
また、神栖地域のボーリングデータは臨海工業地域偏在しており、旧波崎町内には乏しい。そこで、神栖市の地下地質の標準化を目的として、3箇所ではボーリング掘削調査を行った。

# 特筆すべき知見

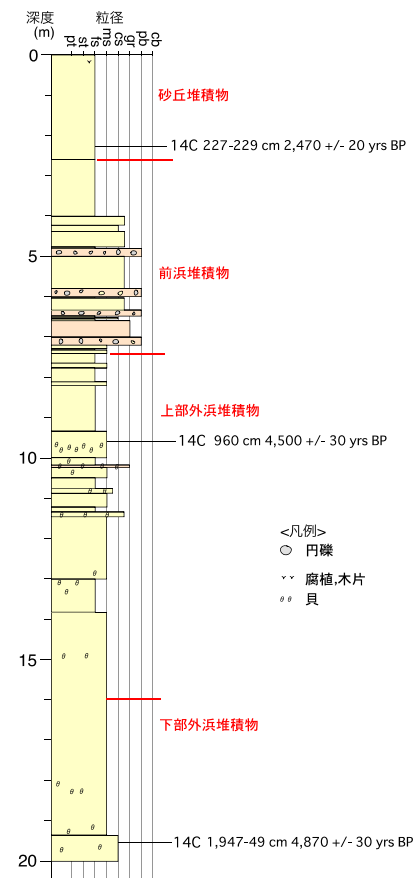
## 賀コア



## 萩原コア



## 土合コア



従来、N値（標準貫入試験値）が50以上の地層は中部更新統（20-40万年前）とされてきたが、土合コアの深度5 m以下の地層の年代から完新世（1万年前以降）であることがわかった。

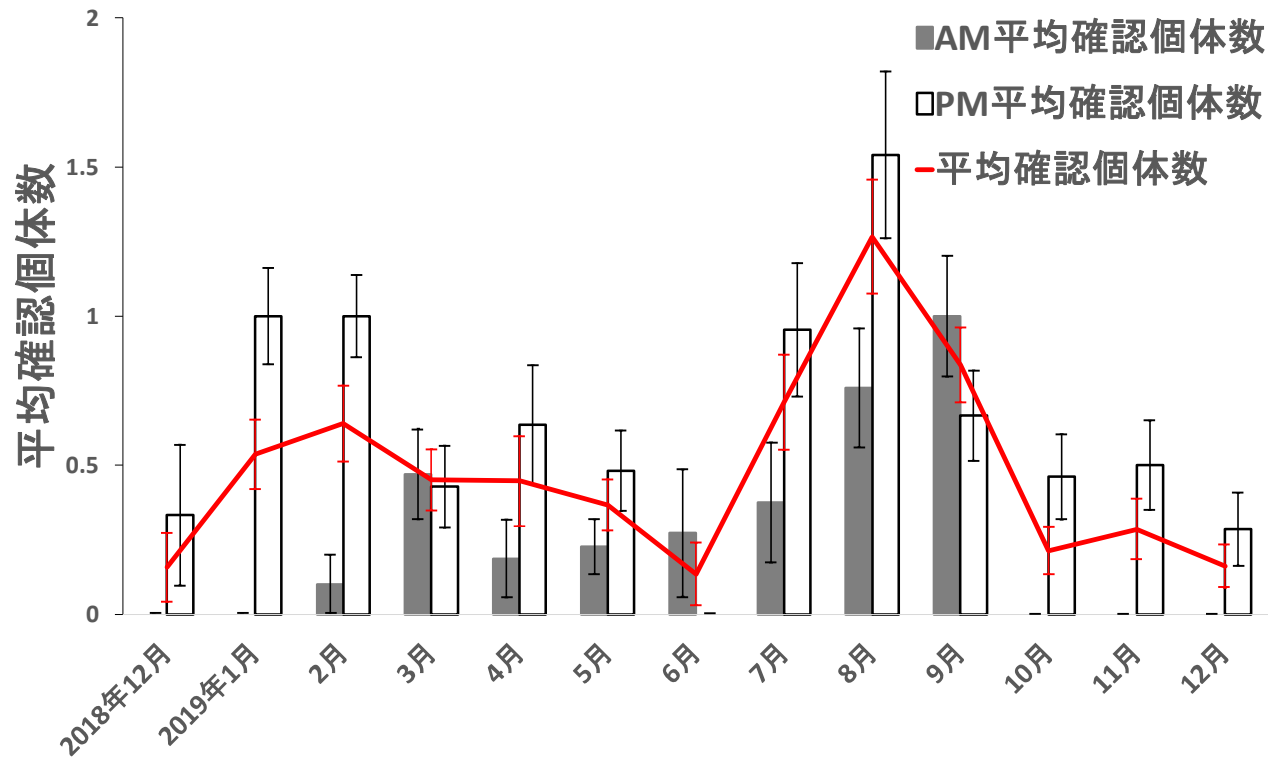
土木建築の支持層は完新統ということになる。

各地点で、上方浅海化する層相がみられる

萩原地区より土合地区の方が年代がやや新しく、完新世中期に急激に砂州が南東に向かって前進したことがわかる

年代は未測定

# (3) 哺乳類に関する調査研究



利根川河口域ではレッドリストで危急種に分類されるスナメリを継続的に確認した。スナメリが利根川河口域を採餌エリアとして通年利用していること、春から夏の繁殖期に繁殖が行われていることが明らかになった。



神栖市全域を踏査し、中・大型陸上哺乳類のセンサーカメラできる緑地を選定した。

## (4) 鳥類に関する調査研究



神栖市全域を踏査し，コアジサシ，シギ・チドリ，ガン・カモ，コウノトリ，カモメなどの確認や繁殖地の調査を行った。来年度以降，鳥類を継続的に定点観測できる地点を選定した。

鳥類相の調査地点を選定